

林さん（保育士&父）

わたしは、2人の子どもがいる保護者です。仕事は、北区の保育園で働いている保育士です。子どもは長男が4年生。長女が年長です。子育てのここまでを一言でいうと、あっという間で、いつの間に！？というのが素直な感覚です。

わたしの家の、リアルな状況を言いますと、仕事がおわったら、家に帰る途中で、保育園にお迎えに行き、食事の支度をしながら学校の宿題を見て、19時半までにはご飯を終わらせて、お風呂、食器洗い、洗濯機を回す。20時半には布団に入って寝かす、子どもが寝たら、何とか起き上がって洗濯を干します。連れ合いとの一致点で、「子どもの生活リズムが最優先」ということで、勤務の早い遅いで、どちらかがそういう役割になります。日常は、こんな感じであっという間に「またあしたねー」と布団に向かう子どもたちを見送ることになります。

・仕事と自身の子育ての両立をめぐる実際と葛藤。保育と子育てはどのように違うか？

さて、今回「仕事と自身の子育ての両立をめぐる実際と葛藤。保育と子育てはどのように違うか？」という課題をいただきまして、この数日間、一生懸命考えていました。

やっと思いついたことは、家で2人を保育していることと、仕事で集団を保育していることでは、子どももお家モード・保育園モードがあるように、自分の中でもスイッチの切り替えがあるということです。家庭では、親と子どもがお互いの『気分・感情』によって、左右されることがたくさんある。

一方で、仕事で子どもと接するときには、自分の感性は大事にしながらも、職員集団のなかで子どもの味方、保育方針の集団的な論議と実践、総括が繰り返される。その年度に関わる子どもとの関係は巡回していくけど、職員集団や園の保育理念などはいきなり変わることはないから、それぞれ育ってきた環境が違う職員同士は、ある意味他人なので、「豊かな保育がしたい」と集まっている者同士で、一致点を作っていくためにたくさん話し合わなければならないし、そこが「保育の質」と密接に関わっていると考えます。

法的な条件だけでは創れない、目に見えない「保育の質」。「隠れ保育の

質？」が、子育てと保育の大きな違いにあるのではないかと思います。

その上で、仕事と子育ての両立の矛盾は、先ほど述べたように、家に帰る時間がバラバラなうえに、家ではわが子と接する時間が短いことに対して、仕事では保育園に来る子どもたちと毎日8時間は一緒にあそび生活を共にしています。しかも、帰ってからも保育園の子どもたちの子とのかかわりを考えたり、書き物をしています。自分の子どもの保育参観や行事には、保育体制が厳しいとき（毎日ですが）には、なかなか行けないことがあります。このコロナ禍では、わが子を感染リスクの高い保育園に預けて、自分も感染リスクの高い職場に出勤します。もし感染したときにも、自助、自己責任の政治です。これが、いま、一番感じている矛盾で、ある意味、本気で、客観的にこの状況と向き合うと泣きたくなります。でも、このやりがいのある、未来社会を開拓するような仕事。わたしは保育が好きです。体はいつもどこかが痛いですが、身体が続く限りは働きたい職業です。

・男性保育士として

次に、「男性保育士」という生き方についてテーマをいただきました。

わたしが福祉大に進学するころ2002年ごろは、まだ「(男であるあなたが)なぜ保育士になりたいか」という面接時の質問があることが、広くありました。

そのころ、すでに私の知り合いには男性保育者が何人かいたし、保育内容も聞いていましたから、「父親代わりとして保育園に男性がいてもよいでしょう」という社会一般的な認識と承認だけでなく、男性だとしても、自分の感性で子どもと向き合うこと、周りの女性職員とのコミュニケーションの中で、保育を作っていくことに保育の本質があると思っていました。

でも、実際は、やはり女性の職場である保育園に、男性が少数でいるのは、肩身が狭い思いをする人がいます。人間関係を理由にした離職者がたくさんいるのが現実です。わたしの職場には、男性保育者が3人いて、支え合っています。

そして、賃金の面でも社会的に処遇の低い保育士は、男性にとっておおきな問題です。一般的に男性と女性の賃金では、女性の方が低いという不当な社会状況の中で、もし、パートナーになろうと出会った相手も低賃金、不安定雇用だったら、やはり人生設計に大きく影響してくることでしょう。

すると、男性の方が、なぜかより賃金の高い職業に転職するということになります。わたしの学童時代に大好きだった男性指導員の先生も、「結婚するから」と退職していったことを覚えています。子どもながらに、“なんで？”“そういう職業なんだ…”と感じました。実際、わが家もわたしだけの収入では、暮らしていきません。わたしが保育士として働けるのは、しんどい思いをしながらも働いている、連れ合いがいるからこそだと、こっそり感謝しています。

いま、わたしの長男も、「保育士になりたい」というので、はっきりと本気の全力で止めているところです。これも矛盾ですね。